フィールド風(現場)からの ㊼

宮田守男

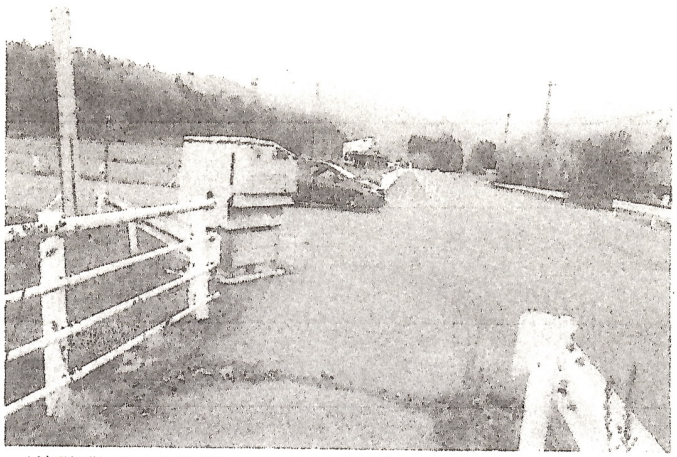
「寒林」の風情を楽しみたいものだ

白馬村内のスキー場が4年ぶりに11月中にオープンした。コロナ禍で外出自粛が続いていたが、自然の中で思う存分スポーツにチャレンジできる環境は、多くの人達を受け入れてくれるのだろう。しかし、年内完成を目指した建築現場にとっては、早すぎる降雪だ。どんな場面にも裏表があるのがこの世の常なのかも知れないが、地域全体の経済の活性化を考えると明るい話題に注目すべきなのだろうか。

降雪によって、森もすっかり冬の装いになった。落葉樹と呼ばれるような木々は葉が色を変え冬支度が始まる。緑色の葉っぱに貯めていた栄養分を枝や幹に移して、やがて葉を落とす。ハラハラ舞い落ちる木々の葉には寂しさを感じる。冬越しのために自ら葉を落として、春を迎えるのだが今回の早い時期の降雪が木々にどの様に影響するのか心配になってしまう。だが今の時期しか出合えない木々が葉を落とし、森の奥まで見渡せる俳句の季語「寒林」。自然がもたらす風情を楽しみたいものだ。

突然の降雪でも早朝に新聞が配達される。山田太郎さんのヒット曲「新聞少年」の「僕のアダナを知ってるかい　朝刊太郎と云うんだぜ」の一節は忘れられないほど印象深かった。頻繁に配達員募集の告知を見る度に、日本独特な家庭への配達が継続してほしいと願うばかりだ。海外に旅行すると新聞を読みたいと思えば、コンビニや街角の書籍販売スタンドだと思っていたが、ミッキーマウスの生みの親として知られるウォルト・ディズニーは子どもの頃、家業の新聞配達を手伝って、朝刊を配って始業ぎりぎりに教室に滑り込み、学校の授業が終わると夕刊の配達、日曜日は厚みがあるため、台車で運んだとの伝記を思い出した。世界での新聞配達の実情を知る事が、各家庭への配達継続の知恵のためにも必要なのだと考えさせられる。

「新酒」が気になる時期を迎えたが、広辞苑では新酒は「醸造したままで、まだ殺菌のための火入れをしない清酒。また、その年とれた米で醸造して春に出荷する酒」と定義されている。だがコロナ禍で大量の酒米の古米もあるはずだ。だからこそ大北地域の清酒は、大きな表示で何年産米での醸造かを表記する事で酒愛好家の信頼を得る取り組みに期待したいと思っている。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



道路敷内に設置された凍結防止剤散布装置。安全のための設置が、安全確認を困難にもさせている。